

登山 月報



JMSCA

登山月報 第636号 令和4年3月15日発行

昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）



マツジャーブルム (7,821m)

8月11日 みんなで山を考えよう!
祝「山の日」
全国「山の日」協議会
山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.636

スポーツクライミングリードジャパンカップ2022	2
第15回山岳スキー競技日本選手権黒部・宇奈月温泉大会報告	5
2021年度レスキュー講習会（積雪期）報告	7
第154回 Mountain World	9
Enjoy Climbing	10
自然保護委員会のSDGsな活動②の3	11
JMSCA、表紙のことば、編集後記	12

スポーツクライミングリードジャパンカップ2022

実行委員長 村岡 正己



2022年2月12日、13日、千葉県印西市(松山下公園総合体育館)において、リードジャパンカップ(第35回)を開催。

【競技】

男子は、一週間前のB J C(四日市)で初優勝を果たした榑崎智亜が予選で敗退。1本目、2本目ともにミスが続き最下位となる。特に2本目は、最初のクリップが外れたまま2つ目のクリップをしてしまったために競技停止となる。一方女子においてもB J C優勝の倉菜々子が34位で敗退。予選から波乱の幕開けとなった。

準決勝、男子では下部から中間部は大型の張りぼてが連続するルート。中間部にラウンジがありここで止めることができずにホールする選手が続出(26名中18名がフォール)するという展開となる。女子も下部にチムニーがあるなど変形のルート。上部は押さえ、保持が厳しいスローパー、ピンチが連続するルート。ここをリードを得意とする大田理裳、小武芽生、谷井菜月、森秋彩の4人が突破する。

決勝は男女ともに持久系のルート。男子は、準決勝6位の本間大晴が粘りの登りでT o p手前の高度38を獲得。核心となる上部の右ヘトラバースを開始する部分ま

で、準決勝2位の緒方良行、1位の藤井快が追いつけるが届かず、本間が5年ぶり2回目の優勝を手にした。

女子は、決勝へ森秋彩、谷井菜月、小武芽生、大田理裳、阿部桃子、柿崎未羽、伊藤ふたば、中川瑠が進出。5番目の大田が高度33+を獲得、つづいて小武が36とベテランが大健闘する中、森が完登で優勝(3大会連続5度目の優勝)を勝ち取る。各選が手こずる部分も確実にこなす登りは圧巻であった。

森は予選、準決勝、そして決勝と全ラウンド1位を獲得。2位には小武、3位には谷井が入った。



LJC2022 成績

男子	氏名	決勝		準決勝		予選		
		高度	順位	高度	順位	高度A	高度B	順位
M 04	本間 大晴	38	1	20+	6	TOP	30+	1
M 07	吉田 智音	35+	2	16+	8	34+	30+	2
M 38	藤井 快	35	3	30+	1	33+	30+	4
M 18	緒方 良行	32	4	29	2	32+	28+	12
M 48	百合草 碧皇	31+	5	28	3	TOP	20+	5
M 08	天笠 颯太	24	6	22+	5	30+	24+	25
M 21	是永 敬一郎	21+	7	24	4	32+	30	10
M 51	西田 秀聖	21+	7	20+	6	31	27+	19

女子	氏名	決勝		準決勝		予選		
		高度	順位	高度	順位	高度A	高度B	順位
W 31	森 秋彩	TOP	1	40+	1	32+	TOP	1
W 43	小武 芽生	36	2	36+	3	29+	30+	6
W 12	谷井 菜月	33+	3	38+	2	29+	TOP	2
W 20	大田 理裳	33+	3	36+	3	27+	22.5+	16
W 03	柿崎 未羽	31+	5	35	6	27+	22.5+	16
W 42	伊藤 ふたば	31+	5	34+	7	32+	28+	3
W 02	中川 瑠	29+	7	28	8	20+	30+	9
W 06	阿部 桃子	25	8	35+	5	20+	28+	15

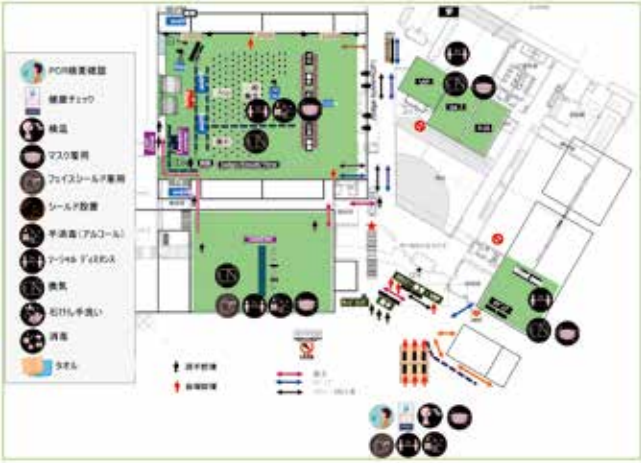


【運営】

B J Cに続き、L J Cも会場来場者全員P C R検査陰性を条件とし有観客で実施した。

1. 会場レイアウト

会場来場P C R検査陰性を条件としているが、さらにバブル管理として、観客と大会関係者が交わらないレイアウトとした。



2. 入場数 (新型コロナウイルス感染対策 上限400人)

	3月12日	3月13日
・選手	96人 (男51女45)	31人 (男26女35)
・観客	83人	101人
・VIP	4人	11人
・メディア	16人	54人
・スタッフ	105人	116人
計	304人	43人

3. 環境データ

天気：2月12日 2-10℃ 晴れ
 室温13℃ CO2濃度380~620ppm
 2月13日 2-6℃ 曇りのち雨
 室温8-15℃ CO2濃407~745ppm

4. メディア (クリッピング)

WEB：18社 (露出30)、新聞：8社 (露出12)
 TV：1社 (露出1 * TBS S1)



森が3連覇 男子は本國が初優勝—スポーツクライミング



スポーツクライミングのリード・ジャパンカップは13日、千葉・松山下公園総合体育館で男女の準決勝と決勝が行われ、女子は森秋奈(宮城県)が3年連続の優勝を果たした。小沢海生(エスエスアイフーズ)が2位、谷井藍月(奈良・福徳学院高)が3位。東京五輪種メダルの野中生萌は準決勝で敗退した。

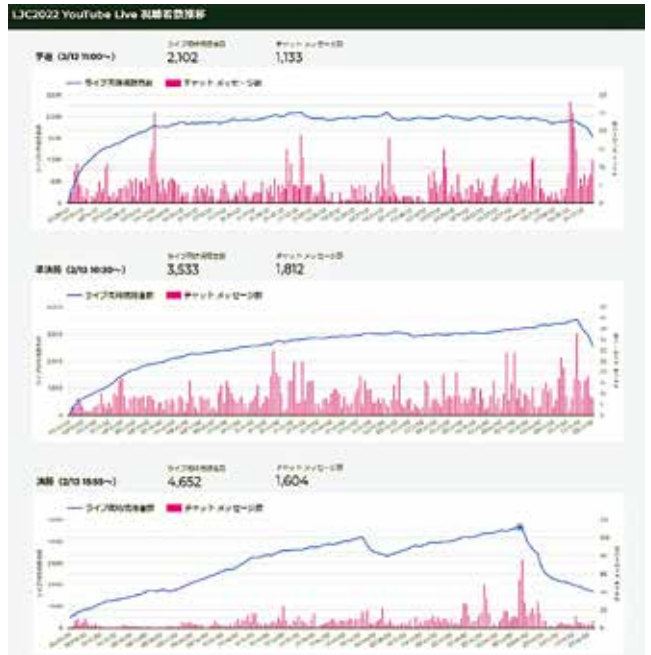
男子は本國大橋(埼玉県協会)が初優勝、連覇を狙った田村智博(奈良・高松高)が2位、藤井快(T E A M @ u) が3位だった。

リード・ジャパンカップ女子決勝で優勝する森秋奈(左)。千葉・松山下公園総合体育館

メディア (放送)

● YOUTUBE

ライブ視聴時間 予選 2102時間 チャット1133
 準決勝3533時間 チャット1812
 決勝 4652時間 チェット1604



● Abema TV 視聴時間 641 h (参考 B J C 1263 h)

ユーチューブとチャットのハイブリッドは確実に伸張している。

【開催地、スタッフコメント】

1. 開催地：大会副実行委員長 目次俊雄

新型コロナウイルス感染拡大第6波によるまん延防止等重点措置発令期間中の開催となり、選手、大会スタッフや観客など関係者全員がP C R検査を受け、陰性の場合のみ参加可能となる条件下で、体調不良や濃厚接触、家庭や職場の諸事情により参加できなくなる人も出て、一部スタッフ配置の変更もありましたが、大会を予定通り開催することができたのは、開催地や大会関係者の皆様の一方ならぬご協力あってのことでした。一週間前のB J Cの疲労が選手にも一部スタッフにも残る中を参加された皆様、大変お疲れさまでした。

会場は2010年千葉国体の際に新設された体育館内の屋内壁で、天候の影響を受けないことが利点となり、国体後も2012,2014,2019年の3回のリードワールドカップはじめ、リードユース日本選手権、リードジャパンカップの会場として活用されてきましたが、2月の開催は初めてで、室温をいかに保つべきか、ルートセット時と大会中の条件を同じくすること、選手のパフォーマンスや観客の快適さとを両立させることの難しさも感じま

した。

ルートセットに要する時間の確保も大きな課題です。今年は一週間前に行われたB J C会場からの協賛ホルドの到着が火曜朝になったこともあり、昨年より一日遅れてのルートセット開始となりましたが、有力選手が多数出場する選考大会で、紙一重の実力の選手の到達高度をうまく分散させ、安全性を念入りに確認するためにも、体育館利用上のルールに配慮しながら、十分なルートセット時間を確保することが重要になります。

スピード競技は別として、リードやボルダリングのようにこれだけ時間をかけて事前の調整が必要な競技は他には少ないと思われますが、準備から大会、ルート復旧まで10日間連続で朝から晩まで体育館にいたことを振り返りながら、あらためてスポーツクライミング競技の特性を感じるとともに、周囲の理解と協力が一層必要なことを痛感しています。

2. セッター：平松幸祐

◆注力したこといろいろあると思います

→事前に全セッターにセットスケジュールや役割も伝え、時間のロスを最小限にする段取りに努めたがそれでもセット期間中は時間に余裕は全くなかった。B級以上のセッターには決勝・準決勝の男女ルートをそれぞれでリーダーを務めてもらい各ルートの指揮をとってもらった。C級セッターには昇格の可否判断もあるため、予選で男女2本あるルートのうち1本ずつを完登数など目標を定めた上で自力で作成してもらった。そこには全セッターがリーダーシップを図ることや、大会が終わるまで全セッターが責任感を持って取り組んでほしいという意図を含めていました。

→今回L J CはB J Cの翌週であり、B J Cと全てが同じホールドで大会を演出することは避けたかった。そこで、B J Cの協賛リストに入っていないであろう国内のブランドに直接アポイントを取り、約10社ほど国内ブランドの協賛を集めることができた。中には国内でまだ流通していないホールドも多く含まれたため、今まで海外メーカーで構成された国内リード大会での決勝ラウンドを払拭するべく選手が未知である国産ホールドだけを使用した今までにない決勝ルートを構成することにチャレンジしました。

◆大変だったことは？

セット期間から室温が低く、大会期間中も換気を重視してか非常に室温が低く、指が悴んでいるような選手も多く見られた。選手のパフォーマンスを考えるとリード競技における会場の気温設定も事前に確認が必要で今後の課題でもあると認識した。大会前日から運営側のデ

モ公開に時間を合わせて欲しいという圧力が強すぎて、予選ルートの内容を優先する重要な部分を見失いそうになった。デモ録りが最終日のセットに負担にならないような解決策が何かないだろうか？

その反面、ルート変更時は時間がタイトにも関わらず、フォローしてくれる方が少なかったと感じます。最近各担当の分業感も強く関係性が乖離しているという意見もセッターからありました。もう一度コミュニケーションを見直すことも必要と感じます。

◆結果を見ての感想はありますか

予選はL J Cレベルになると印西で1面2ルートずつは今後現実的でないと感じた。フォールポイントをかなりチェックして予選4本を仕上げたがそれでもタイミングが悪ければフォールした際に隣の選手にぶつかる可能性もかなりあった。また予選ルートはストレートアップなためどうしても強度感が上がってしまう傾向もあった。男子準決勝は選考大会の重要な部分で実力差がはっきり出せないルートになったのも反省点。決勝ルートが持続的な仕上がりになったため、準決は動きを取り入れて欲しいと男子担当のリーダーに誘導もしてしまった。また中間部で飛びつく際に半分以上の選手が直前にあるクリップをせずにランジで落ちたため横に振られながら落ちる選手も出てしまった。

◆今後のセッターとしての取組

→リードの主要大会は出場する選手またはセッターの命を預かる危険性を含む大会でもあるため、セットにかける時間を増やすまたはセッターの人数を増やさなければ、今後も安全面にも配慮が行き届かない可能性は十分あり。また選手の能力が上がるうえで、ダイナミックな飛びつくムーブも多くなるリード競技では、結果の前にまずは改めて選手の安全を第一に考える必要があると痛感した。

*今回いろいろな事情により大会がタイトなスケジュールでの開催となり、安全面を含め課題が残った。来年度に向けて、競技、技術、強化と連携を取り大会運営ガイドラインの見直しを行うこととした。



第15回山岳スキー競技日本選手権黒部・宇奈月温泉大会報告

これまで、山岳スキー競技日本選手権大会は長野県だけで開催されてきたことから、山岳スキー委員会では、全国での普及・認知度向上を図るため、今大会は黒部市や宇奈月温泉スキー場等の全面的な協力を得て富山県で開催されることとなった。例年4月開催である日本選手権大会を2月に実施することになり約3ヶ月間という短い期間での準備作業となり関係方面への調整にご協力をいただきました丸会長はじめJMSCA関係者の皆様にお礼を申し上げたい。

今大会開催に際し、丸会長、亀山副会長、小野寺専務理事はじめ村岡常務理事、古賀登山部長、野村理事 前田理事 安井理事 中畠監事の皆様が遠路はるばる駆けつけて下さったのは、山岳スキー日本選手権大会始まって以来のことで、改めて御礼申し上げたい。

開催直前には全国的に新型コロナの感染が拡大し、まん延防止等重点措置地域からの選手、役員の受入に際し地元の理解を得るため選手、スタッフ関係者全員に事前のPCR検査を急遽実施することとし感染防止対策の強化を図った。PCR検査を含むコロナ感染防止対策については、JMSCA医科学委員会の角田元先生のご指導を頂いて実施。現地までお出かけ下さった角田元先生に御礼申し上げたい。

参加登録選手総数は 62名で コロナ渦で蔓延防止措置が出る中、首都圏からアクセスの遠い富山での開催としては、納得の行く参加者数であったと思います。開会式には地元宇奈月の有力者に加え黒部市長も御参加頂いた。

またオリンピック競技になったことや、地元新聞社と放送局が共催者になったこともあり、メディアの関心も高く、テレビ5社、新聞・通信社4社が取材に入り、放送は大会開催日前から大会終了翌日まで五回もあった。さらにCSスポーツチャンネルスカイAが番組として制作してくれた。放送は3月末で、CS放送やYoutubeでも見られるとのこと。これらのメディア露出はこれまでに無かったことである。



地元スキー場関係者は観戦を盛り上げるための鳴り物の用意やインディビジュアルレースでは温泉旅館の女将さんが見守る中スタートするなどメディアを意識した演出に力をいれて下さった。

■大会第1日目2月26日

【スプリント競技】2026年ミラノ・コルティナ冬季オリンピックの種目であるこの競技を日本選手権大会としてはじめて採用した。スプリントレースでは「観客に見せる」ためのコース作りが重要で、競技前日に富山県山岳連盟のスタッフ10名と白馬のガイドによりコース設営を行った。山岳スキー競技を初めて観る方にも判りやすく、楽しめるためのコースレイアウトもポイントのひとつだが、これはかなり成功したと思う。

好天に恵まれ、38人選手がレースに挑んだ。シニア男子は24名が出走、予選から準々決勝、準決勝、決勝とすすみ島徳太郎選手(長野県)が優勝した。二位には平林安里選手が入ったが彼はマウンテンバイクからの参入で、島選手と共に将来が期待できる。シニア女子(6名)やジュニアは、参加人数が少なく競技回数を2回とした。シニア女子の優勝は滝澤空良選手(北海道)二位は上田絢加選手(東京)。国内でのスプリントレースは今後国際大会に臨む選手達によって良い経験になったはずである。この日、日本で初めてのスプリントレースの観衆は800人以上で、宇奈月スノーパークの最多入場者



数を記録するのに寄与したとの事であった。

■大会2日目2月27日

【インディビジュアル競技】前日とは異なり雨模様の天気となったため雪崩管理と相談してコースを変更して実施した。雨の中、シニア男子34名、シニア女子6名、ユース男子U18 2名、ユース女子U18 1名が出走。他にシニアショート、U18ショート テレマークの参加もあった。

一位はスプリントと同じく23才の島徳太郎選手(1h 20:43.80)で2冠達成。2位は47才のベテラン藤川健選手(北海道)(1h 20:56.40)三位は同じくベテランの

小寺教夫選手(三重県)であった。体力で押し切る新鋭島選手とスキー技術熟練のベテラン藤川選手はスタートからフィニッシュまで接戦を繰り広げ熱い戦いとなり、観衆を沸かせた。ある意味、藤川選手は後進に体力だけでなく様々な技術も重要であることを、身をもって教えているようにも思えた。2026に向け新鋭とベテランの切磋琢磨が楽しみとなってきた。

シニア女子は一位滝澤空良選手(1h17:21.00)で島選手と並んで2冠達成。二位上田絢加選手と順当であったが、二人ともまだ若く、2026に向けて期待が持てる。ただ女子は層が薄くも少し選手がほしいところである。

■ Sprint レース結果

順位	氏名	フリガナ	性別	タイム
国際規格シニア男子 Senior M				
1	島 徳太郎	シマトクタロウ	男 Men	0:04:07.70
2	平林 安里	ヒラバヤシアリ	男 Men	0:04:15.10
3	藤川 健	フジカワケン	男 Men	0:04:35.10
4	加藤 淳一	カトウジュンイチ	男 Men	0:04:36.00
5	星野 和昭	ホシノカズアキ	男 Men	0:04:54.40
6	松澤 幸靖	マツザワユキヤス	男 Men	0:04:55.70
7	小寺 教夫	コデラノリオ	男 Men	
8	上正原真人	カミショウハラマサト	男 Men	
9	小野 雅弘	オノマサヒロ	男 Men	
10	國吉 正紀	クニヨシマサノリ	男 Men	
11	筑井 祐一	チクイユウイチ	男 Men	
12	遠藤 健太	エンドウケンタ	男 Men	
13	村本 宗将	ムラモトソウスケ	男 Men	
14	木下 竜	キノシタリュウ	男 Men	
15	谷内 隆浩	タニウチタカヒロ	男 Men	
16	土屋 貴洋	ツチヤタケヒロ	男 Men	
17	小林 雅貴	コバヤシマサキ	男 Men	
18	木田 実	キダミノル	男 Men	
19	鈴木啓一郎	スズキケイイチロウ	男 Men	
20	宗近 栄治	ムネチカエイジ	男 Men	
21	須田 忠明	スダダアキ	男 Men	
22	佐藤 圭介	サトウケイスケ	男 Men	
23	原誠 一郎	ハラセイイチロウ	男 Men	
24	小川 朝熙	オガワアサキ	男 Men	
DNS	太田 喜彰	オオタヨシアキ	男 Men	
DNS	高麗 幸大	コマユキヒロ	男 Men	
国際規格シニア女子 Senior W				
1	滝澤 空良	タキザワソラ	女 Women	0:05:35.20
2	上田 絢加	ウエダアヤカ	女 Women	0:06:08.70
3	古田紗恵子	フルタサエコ	女 Women	0:07:43.60
4	池田 美貴	イケダミキ	女 Women	0:08:59.80
5	中山 就実	ナカヤマナルミ	女 Women	0:09:24.50
DNF	飯田 直子	イダナオコ	女 Women	
DNS	枝元香菜子	エダモトカナコ	女 Women	
国際規格ユニア男子 U20 M				
1	萩原 悠己	ハギワラハルキ	男 Men	0:05:45.70
国際規格ユース男子 U18 M				
1	宮下 環	ミヤシタタマキ	男 Men	0:05:24.10
国際規格ユース女子 U18 W				
1	小林 華蓮	コバヤシカレン	女 Women	0:06:14.60
ショート女子 Short W				
1	大西 まり	オオニシマリ	女 Women	
ショート男子 18歳以下 Short U18				
1	山田 朝陽	ヤマダアサヒ	男 Men	
2	笹川 勇太	ササガフユウタ	男 Men	
3	山田 陽遂	ヤマダヒヨリ	男 Men	
テレマーク男子 Telemark M				
1	梅田 俊也	ウメダトシヤ	男 Men	

■ Individual レース結果

順位	氏名	フリガナ	性別	タイム
国際規格シニア男子 Senior M				
1	島 徳太郎	シマトクタロウ	男 Men	1:20:43.80
2	藤川 健	フジカワケン	男 Men	1:20:59.40
3	小寺 教夫	コデラノリオ	男 Men	1:23:15.50
4	平林 安里	ヒラバヤシアリ	男 Men	1:23:59.90
5	小川 壮太	オガワソウタ	男 Men	1:24:05.20
6	遠藤 健太	エンドウケンタ	男 Men	1:26:16.90
7	小野 雅弘	オノマサヒロ	男 Men	1:31:27.20
8	松澤 幸靖	マツザワユキヤス	男 Men	1:35:02.00
9	星野 和昭	ホシノカズアキ	男 Men	1:40:16.30
10	國吉 正紀	クニヨシマサノリ	男 Men	1:42:14.20
11	太田 喜彰	オオタヨシアキ	男 Men	1:48:23.70
12	ムンディアアロン	ムンディアアロン	男 Men	1:49:41.60
13	上正原 真人	カミショウハラマサト	男 Men	1:50:48.50
14	萱津 寛章	カヤツヒロアキ	男 Men	1:51:19.50
15	木田 実	キダミノル	男 Men	1:51:41.20
16	太宰 智志	ダイザイサトシ	男 Men	1:54:01.70
17	土屋 貴洋	ツチヤタケヒロ	男 Men	1:59:11.00
18	村本 宗将	ムラモトソウスケ	男 Men	2:00:40.40
19	木下 竜	キノシタリュウ	男 Men	2:00:42.30
20	萩原 悠己	ハギワラハルキ	男 Men	2:01:33.50
21	倉島 孝行	クラシマタカユキ	男 Men	2:02:43.10
22	筑井 祐一	チクイユウイチ	男 Men	2:07:48.90
23	宗近 栄治	ムネチカエイジ	男 Men	2:07:49.00
24	小林 雅貴	コバヤシマサキ	男 Men	2:21:58.20
25	谷内 隆浩	タニウチタカヒロ	男 Men	2:25:05.60
26	佐藤 圭介	サトウケイスケ	男 Men	2:26:34.00
27	須田 忠明	スダダアキ	男 Men	2:32:03.60
28	鈴木啓一郎	スズキケイイチロウ	男 Men	2:35:42.00
29	川口 真	カワグチマコト	男 Men	2:56:25.70
30	原 誠一郎	ハラセイイチロウ	男 Men	2:56:37.90
DNF	加藤 淳一	カトウジュンイチ	男 Men	
DNF	川崎 義孝	カワサキヨシタカ	男 Men	
DNF	西野 康二	ニシノコウジ	男 Men	
DNF	大庭 大	オオバヒロシ	男 Men	
DNS	高麗 幸大	コマユキヒロ	男 Men	
DNS	小出 徹	コイデトオル	男 Men	
DNS	小川 朝熙	オガワアサキ	男 Men	
DNS	笹生 博夫	ササウヒロオ	男 Men	
国際規格シニア女子 Senior W				
1	滝澤 空良	タキザワソラ	女 Women	1:17:21.00
2	上田 絢加	ウエダアヤカ	女 Women	1:18:41.70
3	堀部 倫子	ホリベミチコ	女 Women	1:31:31.50
4	飯田 直子	イダナオコ	女 Women	1:32:53.10
5	古田紗恵子	フルタサエコ	女 Women	1:42:25.00
6	中山 就実	ナカヤマナルミ	女 Women	1:55:13.70
DNS	枝元香菜子	エダモトカナコ	女 Women	
国際規格ユース男子 U18 M				
1	宮下 環	ミヤシタタマキ	男 Men	0:55:19.40
2	笹川 伸吾	ササガフシンゴ	男 Men	1:29:19.00
国際規格ユース女子 U18 W				
1	小林 華蓮	コバヤシカレン	女 Women	1:01:40.50
ショート男子 Short M				
1	曾根 慎一	ソネシンイチ	男 Men	1:08:14.90
2	七宮 勝広	ナナミヤカツヒロ	男 Men	1:16:59.40
ショート女子 Short W				
1	池田 美貴	イケダミキ	女 Women	1:13:21.40
2	笹川 陽子	ササガフヨウコ	女 Women	1:15:34.00
3	大西 まり	オオニシマリ	女 Women	1:39:49.10
4	太宰奈津子	ダイザイナツコ	女 Women	1:41:03.70
ショート男子 18歳以下 Short U18				
1	山田 朝陽	ヤマダアサヒ	男 Men	1:12:42.20
2	笹川 勇太	ササガフユウタ	男 Men	1:15:49.00
テレマーク男 Telemark M				
1	田中 義朗	タナカヨシロウ	男 Men	1:08:20.30
2	梅田 俊也	ウメダトシヤ	男 Men	1:30:24.90



2021年度レスキュー講習会(積雪期)報告

遭難対策委員長 町田幸男



アクリル板を配置しての開講式

2022年1月28(金)～30日(日)群馬県みなかみ町湯檜曾「土合山の家」にて2年ぶりのレスキュー講習会(積雪期)を開催した。コロナ感染拡大によるまん延防止措置発令のなか、開催にあたっては数か月前より様々な準備に取り掛かり、無事開催の運びとなった。参加者には、開催2週間前からの検温や2回の予防接種終了証明の提示などをお願いし、開催中のマスク着用やこまめな手指消毒、食事時の会話禁止などできる限りの感染防止対策を講じた。また、土合山の家中島社長のお計らいで宿泊施設は貸し切りにしていただき、宿泊は1人一部屋で使用させていただいた。まん延防止措置の影響で申込後のキャンセルは10数名に上り、最終的に募集36名に対しクラス1が8名、クラス2が4名、クラス3にあってはわずか2名で合計14名の参加であった。

28日の開講式と全体講習については谷川岳ドライブインの2階を借用し100名規模の会場を確保、ガイドラインに従い十分な空間を準備した。今回は夜の講義時間をなくしたため開始を10時に早めた。開講式の後、全体講義としてJANの出川講師による雪崩概論についての講義を行った。その後3クラスに分かれての講習となったが、クラス2,3については引き続き低体温症と凍傷についての講義を実施した。講義は一昨年に引き続きJMSCA登山医科学委員会の上小牧副委員長をお願いした。上小牧さんは現役の医師であり、ヒマラヤ登山等の経験も豊富で興味あるお話を伺うことができた。また、このような状況下なのでドクターには朝の検温と参加者の体調管理にもあたっていただいた。

クラス1担当 服巻主任講師(神奈川)

内容はJANのセーフティーキャンプに準じたも

ので、雪崩に対する予防が主な講習内容となっている。雪崩捜索についてはビーコンの基本操作を中心に講習を行った。ビーコンについては自分の持っている機種についてスイッチの入れ方等基本操作について習熟してくるよう毎年お願いしているが、今年は本当にスイッチの入れ方だけ確認してきたという受講生が見受けられた。今年は新たな試みとしてeラーニングによる事前講習を取り入れた。効果のほどは不明だが理解度を上げるにはよい取り組みであったといえる。講習の流れとしては机上講習と屋外実習を交互に行い習熟度を上げている。また、グループ学習を行うことで自ら考えながら答えを導くトレーニングにもなった。

クラス2担当 井上主任講師(神奈川)

クラス2はビーコン操作による1名分の捜索が確実に出来るようになるまでをゴールとしている。今回は習熟度を上げるためビーコン操作に関する机上講習を最初に行った。ビーコンの磁界特性から捜索の基本的な手順であるシグナルサーチ、コース(荒い)サーチ、ファインサーチについて学習した。その後は屋外実習にてまずは講習生のスキルを確認、続いてビーコン操作、プロービング、遭難者の掘り出しについて確認した。また、悪天時の対応や遭難者の一時避難としてのシェルターについてスノーマウントの作り方を学んだ。

今回搬送については実際には行わなかったが、搬送に必要なツェルトを使ったパッケージングについても屋内で学習した。最終日にはシミュレーションによる実際の雪崩現場での総合的な動きを確認した。

クラス3担当 宮下主任講師(茨城)

今年は講習内容を全面的に見直し刷新した。日本雪崩捜索救助協議会(AvSAR)で実施している上級講習会へのアプローチとして1名分を確実に捜索できるスキルを持ち合わせた人を対象とした。ビーコンについてはその歴史や変遷、構造について学び磁界特性から生じるフォルスマキシマムや複数埋没に対応するためのマーキング、深い埋没での反応などより高度な内容となった。プロービングにあってはスパイラルプローブからスポットプローブ、ラインプローブについて理論的な講習がなされた。更には実際の雪崩現場で必要となる現場マネジメントやトリアージについて

もその基本を学んだ。ただ、参加者がわずか2名だったため目的とした複数埋没への対応については大変厳しい環境となった。そのかわり講師とマンツーマンで内容の濃い講習が行えたのではないだろうか。

感想【クラス1 岩手県 鎌田智子】

山スキーを始めるにあたり、「積雪期レスキュー」の知識は必須、雪の特性や雪崩についても学びたいと思い、参加しました。事前にどのクラスを受けたらよいか相談したところ内容の詳細を教えてください「クラス1」を選択。事前のeラーニングもとても充実した内容で、雪の化学変化や雪崩の仕組みを学習することができました。

雪国生まれ・雪国育ちの私ですが、今までは「生活の中での雪」に慣れていただけで、「安全管理や知識を持って接しなければならない雪」として雪を取り扱う考え方を学ぶことができました。座学だけでなくフィールドワークも充実している内容で、ピットチェックの行い方・地形を見ながらハイクアップする演習・コンパニオンレスキューの指導もあり、受講生の方々と交流を深めることもできました。この学びを反芻し、技術の反復練習に努め、安全登山に活かしていきたいです。参加させて頂きありがとうございました。

ツェルトを使用したパッケージング

感想【クラス2 東京都 安田宏記】

事務局・講師・会場提供の谷川土合山の家の皆さん、3日間お世話になりありがとうございました。

今回はコロナ禍の重点措置実施の中、座学や食事の際の配置、宿泊の個室対応、毎朝の検温等、ご準備は大変だったと思いますが、密を避け感染防止に相当配慮する形で開催を実現してくださいました。

クラス2の受講生はコロナの影響か4名と少数でしたがその分、雪崩ビーコン操作(シグナルサーチ・コースサーチ・ファインサーチ)を何度も何度も繰り返し反復練習できました。ダメ出しを受ける度に修正を図り正しい動作が身に着くように努めました。埋没者搜索は、当初1名から2名搜索まで拡大して一層のス

キル向上に繋がりました。掘出し、スノーマウント構築、要救助者の梱包・搬送まで受講したのち、最終日は一連の搜索救助を4名がチーム一丸となってシミュレーションに臨みました。これまでの訓練の総仕上げで実践力が問われましたがリーダー役の指示のもと受講生みんなで声を掛け合い自律的に、色々反省点はあるもののしっかり対応できたと手ごたえを感じました。濃厚な3日間で受講生仲間に感謝しつつ、来年は是非クラス3を受講したいとの思いで帰路につきました。

感想【クラス3 愛知県 浦川陽子】

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止となったレスキュー講習会、今年度も感染拡大は収まらず厳しい条件の中でありながらも、徹底した感染対策のもと、講習会準備・開催をして下さった講師の皆様へ感謝申し上げます。

クラス3は、雪崩搜索の基本動作の確認をした後、150cm以上の深い埋没や複数埋没者の搜索、実際の雪崩を想定したシナリオを繰り返し行うことによって、状況に応じての判断、トリアージやマネジメント力を深めていく予定でした。

受講生2名に対して担当講師は3名。恵まれた環境下のもと、基礎をふまえた上で、より実践的な総合力を高めるのには絶好の機会でした。

ビーコン探索については、私自身も10年以上前から毎年、何らかの形では行っていて、昨年も自信を持って確実にできるように自主練を繰り返したはずなのに、1年経ったら、また振り出しへ。講師の皆様へ申し訳なさと、自分に対して情けなさと悔しさしか残りませんでした。

掘り出しの時は、講師から「そこは地面まで掘らないといけないからね」と。(地面って、180cmだよね…)受講生ふたりにとって、一カ所を掘り起こすだけでも大変でした。

講習会中は、時間の無駄がないように、私達が講習に集中できるようにと、朝の早い時間帯から講師達が事前準備され、工夫されているのも伝わってきました。埋めるのも掘り出しも大変な150cm以上の深い埋没を複数個経験できるのも、JMSCAの講師陣だからこそ!

今回は、自分に対する情けなさと悔しさしか残らなかったもので、来年以降の開催で人数枠にゆとりがあれば、リベンジ参加したいと思っています。

3日間、御一緒して下さいました皆様、ありがとうございました。

ツェルトを使用したパッケージング



第154回 Mountain World

ロシアのウクライナ侵攻に高まる批判

池田常道

2月24日、北京で行なわれていた冬季オリンピック大会の閉会を待ちかねたように、ロシア軍がウクライナ侵攻に踏み切った。プーチン大統領は隣国ベラルーシとの合同軍事演習を名目として国境地帯に多数の兵力を動員、演習を終えてからも一向に兵を引く姿勢を見せなかったことから警戒されていた事態だが、バイデン政権の米国が強く出られないと踏んで強硬手段に訴えたものだ。侵攻は北・東・南の3方向から行なわれ、いくつかの主要都市が攻撃されているが、迎え撃つウクライナ軍の抵抗に遭って、首都キエフは3月に入ってもまだ陥落していない。

圧倒的な兵力差に簡単にケリがつくとタカをくくっていたか、ロシアの国営メディアは、侵攻開始から48時間後に早まって勝利の予定稿を出してしまうという失態も演じた。これはすぐ取り消されたが、ネット時代の情報だけに時遅く、世界中の人の目に触れることになった。予定稿に盛られたロシアの主張は、ウクライナが西側に接近することは自国の安全を脅かすと断定、ゼレンスキー政権を転覆させ、旧ソ連時代のように無害な衛星国に留めようとするものだ。

ロシアは2014年に当時の親口派政権が倒れるや、軍事的要衝のクリミア半島を併合、東部2州(ドネツク、ルガンスク)のロシア人住民が迫害されているという理屈で両州の親口派武装勢力を支援、今回は彼らの独立を一方的に承認し、親口派支配地域ばかりでなく両州全域で彼らの主権を認めるよう迫っている。自国民保護の主張の下に軍事的手段に訴えるのは、第二次大戦の口火となったヒトラーのチェコ進駐を思わせる「虚構の紛争」そのものと言うしかない。

遅まきながら米国も手を打った。経済的にロシアを締め付けるため制裁措置を発動、その結果ロシア通貨ルーブルは大幅に下落した。また、国連安保理事会の非難決議がロシアの拒否権で否決されると193カ国が参加した緊急特別会合を開催、141の圧倒的賛成多数でロシア非難を採択した。

スポーツ界の反応はどうか。国際パラリンピック委員会は、北京で予定されていた冬季パラリンピック大会にロシアとベラルーシの参加を禁じた。当初は委員

会名あるいは個人として認めるとしたが、20時間後に参加禁止が決まった。サッカーでも、ワールドカップのヨーロッパ予選でロシア代表とは対戦しないという声が高まり、両国とも出場できないことになった。自動車レースのF1でも、モスクワで予定されていたレースが他国で開催されることになった。

スポーツ・クライミングでは、モスクワで開く予定だったスピードとボルダーの今季初戦が他国に移して行なわれることになった。イタリア連盟は哀悼の意を伝え、ウクライナ・クライマーにトレーニングの場所と施設を提供すると申し出ている。ロシア国内のクライマーも軍事進攻に反対の声をあげ、二つのサイトが政府への公開質問状を公表した。また、アレクサンドル・ゲーコフは、#ClimbersForPeaceのハッシュタグで軍事行動に反対の意見を明らかにしている。



ロシアのサイト Mountain.ru が作成したポスター

アンナブルナⅢ峰南東稜を初登攀したミハイル・フォーミンらのトリオやスピード競技で五輪に出場したダニル・ボルディエフなど多くのウクライナ・クライマーをフィーチャーしている

Enjoy Climbing

山本 大貴

Golden Gate, El Capitan, Yosemite ②

6/10 3:00起床

日射によって状態が悪くなる前のトライを目指し、暗い中目を覚ます。今晚もここに泊まるかもしれないとお互い迷ったが、腹を括ってホールバッグに荷物を詰める事にした。

朝イチでの緊張のトライは、上部核心は抜けたものの、下部でスローパーを抑えきれず、惜しくもフォール。次のトライはプレッシャーが高まる。

続くトライは、上部は滑らずに上手くこなせ、下部の核心へ。今度はスローパーを何とか叫びながら保持することが出来、レッドポイントする事ができた。これでようやく先に進める。

素早く荷物をホーリングし、続く5ピッチを難なくこなしていく。蛇行したルートが多く、また脆いため快適とは言えないピッチであった。

そこから、28ピッチ目”The Move”が始まる。ここも日が陰るのを待ってから取り付く事にした。このピッチはリーチがあると核心部のムーブが変わり、長門より私にとって若干有利。暗くなりヘッドントライの2便目、核心は超えたものの続くスローパーでのトラバースで見事にヨレ落ち。惜しくもレッドポイント出来ず、次の日にお預けとなった。

6/11 4:00起床

朝一のトライでレッドポイント。幸先の良い1日である。長門トライも考えたが、この先に5.13 aが2本待ち受けるということ視野に入れ、先に進む事にした。

続く2ピッチをこなし、Tower to the peopleへ到着。ポーターレッジを素早く立て、横になりながら陽が沈むのを待つ。この先は、Golden Desert、A5 Traverseと名付けられた5.13 aが続く。

僕たちは、チームフリーというどちらかがレッドポイント出来れば、次のピッチへと進んでいくスタイル。チームとしてオールピッチのレッドポイントを目指すやり方である。他のスタイルとしては、難しいピッチのみ、お互いレッドポイントを目指すものや、Dwan Wallの初登時の様にフォロワーもフリーでクライミングを行うもの、また1人で全ピッチのリードや荷上を行うものがある。また、El Capitan山頂へは一部ユマールが混じる登山道があり、事前の難ピッチのムーブの確認やデポなど行うことも可能。事前デポによるゴーアップ時の負荷の

軽減は、非常に大きくなる。そういった様々なスタイルで挑戦可能となっており、その選択はそのクライマーに委ねられている。自分達の実力とルートの難しさを天秤にかけ、妥協点を探り、計画を組み立てていく。それら過程もビッグウォールの楽しみの一つと言っても過言ではない。

Golden Desertは6/12にかけて、お互い順調にレッドポイントし、翌6/13、5日目の朝1:30起床でA5 Traverseのトライを経て、El Capitan Topを目指す。残りは5ピッチ。前日の午後は完全にレストに当て、体は若干のリフレッシュ。こういったクライミングでは、疲労は言い訳にならない。体に残った力を振り絞って、トライする事がいかに重要か思い知らされる。パンプで落ちるのではなく、突然体に重力の負荷が掛かったように、重心が下がってくる。1便目は、お互いムーブの最終確認。プレッシャーの押し寄せる中、2便目に向かう。お互い軽口を叩きながら、ハーネスにロープを通す。こういった状況は、深刻になりすぎず、トライ直前は軽いノリでスタートする方が良い。

完全にイメージした通りのムーブをこなせ、完全に余力がなくなる前に押し通した。全般的にホールドは大きく、スローパーやアンダーといった大きく、パワー系なムーブで繋げるこのトラバースピッチは33ピッチ目と考えると持久系な課題に感じた。

続く長門トライは、最後の最後でフォール。再度ムーブを確認し、ビレー点に戻ってきた。時間はまだ7:30、レストを挟みもうワントライするという。最後は気持ちよく、2人ともレッドポイントしてから進みたい。

長門は、Tower to the peopleのレッジに戻りしばしの休息。残りのピッチを考えても、12時には出発する必要がある。本当はさらに休みたいだろうが、9:30にはビレー点に戻ってきた。

体力的にも最後のトライ。緊張が伝わってくる。リズム良くムーブをこなし、前トライで落ちた箇所へ。最後は叫びながら体を止め、終了点に這い上がった。嬉しさが込み上げる。

これで思い残す事なく、El Capitan Topを目指すこととなる。フォローはユマールリングで進み、A5 Traverseの終了点でホーリングを行った。

緊張のラストトライ”A5 Traverse”





この時点で11時、続く5.12 aと5.11代の3ピッチは比較的マイルドで、時間が掛かりながらもオンサイトでラストを締めくくった。エルキャップメドーに降りたのは、その数時間後。メドーから改めて自分たちの登ったラインを見上げ、充実感に浸る時間を過ごす事ができた。先ほどまで、壁の中で過ごしていた事が嘘の様に、気持ちは晴れ渡り爽快な気分であった。

マルチピッチ、ビッグウォールをフリーで目指すのであれば、前腕が張っていようが、全身が疲労に包まれていようが、前に突き進むしかない。

日々登りたくてソワソワしてしまうような自分にとっ

て、毎日全力のクライミングを要求されるこのスタイルは、幸せな時間過ごせること間違いなし。限りある時間の中で、地上から頂上までをフリークライミングで繋いで進んでいく事はこの上ない喜びであった。

現在、コロナ禍で思うような渡航が厳しい状況ではあるが、また壁の中で過ごせる事を切に願う。

自然保護委員会のSDGsな活動②の3

登山部
自然保護委員会

JMSCA自然保護委員会は、植林やその維持管理等の活動を全国に提言していくことを前稿で述べた。これまで取り組んできた「山の緑を守り、素晴らしい日本の山岳美を未来に残す活動」の一環でもあるが、延いては温暖化対策としてのカーボンニュートラルの一助となり、自然生息地の劣化を抑制することで生物多様性と生態系の保全を果たし、災害のリスクを軽減してSDGsが求める「誰も取り残さない持続可能な社会を作ること」に繋がるものだからである。

ただし、こうした「植林」等による森林再生は一見すると分かりやすい気候変動対策ではあるが、地球温暖化に対抗するためのCO₂排出量削減の抜本的な解決策ではないことは十分理解しなければならないと思う。「最大のリスクは、植林という言葉が醸し出す響きに惑わされ、実際よりも有意義な行動を取っていると勘違いしてしまうこと、成長に著しく時間のかかる活動がカーボン・ニュートラルに直結する取り組みであると誤解することである」との指摘もある。何十年もかけて膨大な数の樹木を植えて保護しても、世界的なCO₂排出量のほんの一部を相殺できるに過ぎず、干魃、山火事、病気、または他の地域での森林伐採によって、長年の努力が無駄になる可能性が十分にあることも覚悟しなければならない。

山屋としてできる活動はとて小々なことであり、多くの困難も予想されるが「まず隗より始めよ」である。私たちはこれまで、丹沢で、あるいは高尾山や奥多摩で植林作業や間伐等の体験をしてきた。一方、林業の衰退から植林はしたものの下刈りや間伐などがされず放置された森や、再生可能エネルギー創出の美名の下、ソーラーパネルを設置したり、風車を丘の景観とする

ために「皆伐」された里山が数知れないこと、林業の効率化や観光のためか山の奥まで伸びた林道が昨今の異常気象による大雨で崩壊する例が後を絶たないことも多く見聞きしている。

こうした現状を踏まえて、委員会とし「森林の維持管理の重要性」を発信し、実際に全国の山岳団体に呼びかけ現地の実情にあった「植林作業」や「間伐等の維持管理作業」「登山道の整備」をサポートしていこうと思う。森林再生は継続しなければむしろ「害」となることから、林業の実際に触れる研修会を開催、また経済的下支えのための助成金等の活用を促し、活動を続けやすい環境を整える。そして、これらの実践を可視化し、あらゆる機会を利用して継続して発信していこうと考えている。

全国の山屋さんの協力をお願いする次第です。

(自然保護委員長 小高令子)



日時：令和4年1月13日(木)14:00～17:30

場所 Web会議

出席者 丸会長、亀山、小野寺専務理事、古賀、村岡、相良、蛭田、濱田各常務理事、山口、町田、前田、山本、六角、青山、水村、栗田、水島、野村、安井、小竹、笹生、原各理事中島、古屋各監事

1. 開 会

2. 会長挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。昨年はコロナ禍の影響で社会が停滞気味でした。今年はギヤーを切り替えて業務を進めていきたいと思っております。理事の皆様には洞察力 (insight) をもって、新たな課題に取り組んで頂きたい。

よろしく願いいたします。

3. 会議成立状況報告

理事数 24名中22名出席
監事数 2名中2名出席

4. 議 題

議案第1号 議事録の承認について

事前送付された2021年度第10回理事会議事録に関して全員異議なく承認された。

議案第2号 山岳スキー強化計画について

本議案は議論の結果、ガバナンス委員会の精査を受けた後、令和4年2月理事会にて再審議することになった。

議事経緯：笹生山岳スキー委員会委員長ならびに小竹担当理事より配布資料に従って説明がなされた。

1. 強化選手候補者、島徳太郎、滝沢空良2名の経歴、選考理由
2. 理事会に提出された選手選考規程(案)はガバナンス委員会の校閲を受けておらず、理事会でも未承認であること。
3. 世界選手権出場選手は2022年宇奈月日本山岳スキー選手権大会での成績上位の者を充てる。

山口ガバナンス委員会主管理事より、選考基準に関して、選考過程の公平性、明確性、透明性等を明確にする意味でもガバナンス委員会にて一度目を通しておく必要があると思う、との発言があった。

以上を踏まえて、山岳スキー競技大会選手選考規程に関しては、ガバナンス委員会にてチェックし、問題点(宿泊時期等)を整理し解決した上で、2月常務理事会・理事会にて審議することになった。

その他、強化選手の年齢制限(2021年度)に関しては慎重に検討する必要があるとの意見が丸会長、安井SC強化委員長、古賀登山部長、中島、古屋両監事からあった。

議案第3号(報告事項・情報共有に変更) 謝金規程の変更について(強化委員会)

安井SC強化委員長より現行謝金の見直し要望に関する説明があった。謝金上限を3万円とする。コーチ陣の数を増やし、かつ次世代(職業コーチ)へのパトタッチを考慮し、さらに日本代表選手の二次的職業(セカンド・キャリア)の確保も考慮しての改定案である。資格別に料金体系を整える。

小野寺専務理事より以下の補足説明が

あった。JOCのオリンピック競技団体別は特、A、B、C、Dと別れている。Dは非オリンピック競技。オリンピック以前のJMCSAはDクラスで年間500万円が支給されていた。現在JMCSAはCランクに格上げされている。

7. 報 告

報告第1号 12月度月次決算報告について

相良常務理事(財務)より事前配布資料に基づき重点事項の説明がなされた。

中島監事からの要望事項：特定資産の取り崩しに関するルール化を進めること。助成金・補助金見込みの確定を進めること。各種大会費用の精算は期末までに必ず行うこと。報告第2号 2022年創立60周年記念新春懇談会について

次第について小野寺専務理事より報告があった。

10:30～SC・登山関係表彰式

12:00～顧問・参与会

13:30～新春懇談会

参加役員の服装コードはネクタイ着用、白ワイシャツ、上下スーツ。

赤尾事務局より参加予定者数の報告があった。

選手含め80名程度、座席指定方式、顧問5名、参与10名程度、60名前半程度、座席指定方式。

報告第3号 安全登山研修会当該県引継ぎについて

小野寺専務理事より報告があった。

新春懇談会の翌日(1月16日)、アルカディア市ヶ谷で開催される。国立登山研修所と共同して毎年行っている行事で、令和3年度は三重県(東)、佐賀県(西)が担当した。令和4年度は茨城県(東)、島根県(西)への運営方法等に関する引継ぎである。JMCSAからは小野寺専務理事、古賀登山部長、廣川厚子総務常任委員3名が出席予定である。

報告第4号 山形県文書関連訪問報告について

1) 亀山副会長の山形県への出張報告書に基づいて、山形県山岳連盟幹部との会談内容ならびに今後の対応案等について、亀山副会長より、報告・説明があった。

2) 山形県山岳連盟に加盟の山岳団体は現在10団体、令和3年度の岳連年間事業予算は160万円程度、その内国体・SC関連で約72万円(総事業予算の約45%)である。国体・SCに詳しい役員がいない、若手役員が入っていない、岳連加盟山岳団体は国体・SCに興味がない、事業予算以外にも多くの役員が手弁で行事に参加している、等々を踏まえて山形岳連は、少なくとも令和4年度は国体・SC関連行事はやらない旨、山形県スポーツ協会ならびにJMCSAに通達した。

3) JMCSAとしては、今後も前向きに柔軟な姿勢で国体・SC競技の継続に向けて努力を続けてほしい旨お願いした。

4) 帰京後、令和4年1月7日、会長、専務理事、古賀登山部長(ZOOM)、亀山の四名にて対応会議を開催した。山形岳連と同様の加盟山岳会10団体以下のJMCSA加盟団体は15団体ある(2021年度JMCSA名簿より)。協議の結果、問題解決のために、会長諮問機関である「JMCSA加盟団体振興推進プロジェクトチーム」を立ち上げることにした。PTリーダーは亀山、副リーダーは古賀

登山部長が会長より指名された。

5) 今後、「PT設立要綱」(案)をガバナンス委員会の校閲、常務理事会承認を受けた後発効させ、PTメンバーの選定及び関連する運操作業を進める。

神奈川 水島理事コメント：以前から言われていることであるが、実行する気構え、覚悟が問われる。

徳島 原理事コメント：若者が入ってこない。四国ブロックは4県しかないの、4年に一回ブロック大会担当が回ってくる。担当県で開催される国体ブロック大会の経費の捻出が大変である。特にルートセッター費用、会場費等で、県からの補助金等ではまったく足りない。毎回大変な負担となっている。国体ブロック大会に係る経費問題は全国的な共通問題であろうと思っている。

岡山 山本理事コメント：PTメンバーにはSC関連メンバー(特に国体関係者)を是非加えて欲しい。

東京 栗田理事コメント：今年東京でも関東ブロック大会が開催される予定で諸々大変である。規模の小さい岳連ではより大変であろうと推察される。今後の開催に関しては一都道府県岳連・協会が担当するのではなく、都道府県岳連・協会の複数による共同開催を実行できる方向が図られればと考えている。

奈良 前田理事コメント：奈良は小規模ながら近隣県の応援などを得ながら、なんとか賄っている。各都道府県岳連(協会)の諸事情を拾い上げながら対応策を考えるのが良いと思う。

報告第5号 山岳スキー日本選手権要項について

宇奈月日本山岳スキー選手権大会要項について笹生山岳スキー委員長より説明があった。また、小竹山岳スキー委員会担当理事より、JMCSA各役員の皆様にも出来るだけ大会に参加して、実際の競技を見ていただきたい旨の要望が述べられた。

報告第6号 山岳スキー常任委員の追加について並びにASMFF(アジア山岳スキー連盟)役員選挙結果について

丸会長より、丸山尚子氏のJMCSA山岳スキー委員会常任委員ならびにASMFF理事候補推薦理由の説明があった。

12月20日ISMFFとASMFF(アジア山岳スキー連盟)から、役員選挙があり立候補締め切りが1月6日である旨の唐突な連絡が来た。急遽立候補者の選考を行い、幾人かの候補者の中から、資質、経歴、実績、コミュニケーション能力、チームワーク能力、リーダーシップ能力などを兼ね備えている丸山尚子氏をJMCSA山岳スキー委員会常任委員ならびにASMFF理事の候補者として推薦した(ASMFF理事選挙立候補にはJMCSA役員の肩書が必要である)。

笹生山岳スキー委員長から、1月10日に実施されたASMFF役員選挙にて、以下の2名がASMFF理事に当選した、との報告がなされた。

笹生博夫⇒ASMFF理事(JMCSA山岳スキー委員長、理事)丸山尚子⇒ASMFF理事(JMCSA山岳スキー委員会常任委員)

報告第7号 Tokyo2020 検証について

安井SC強化部長より、検証メンバー6名で取り纏められた「東京五輪検証レポート」に基づき要点報告がなされた。

検証結果総括としては、スポーツクライミングとしては初めてのオリンピック経験、地元開催、コロナ禍による1年の開催延期等々で様々な対応が求められる大会であった。競技成績としては目標に届かなかったが、銀、銅各1個を獲得できた素晴らしい成果であった。

この検証結果を踏まえて、パリオリンピックへ向けて強化委員会事務局を含め、さらなる体制強化を図ることがオリンピック競技団体(NF)として必要である。

スピード競技種目は難しいと感じていた。施設も競技経験もない状態で東京大会に臨んだが、最終的には何とか強化が間に合ったと考えている。スピード競技に関してはオリンピック競技になるだろうとの情報を早めに入手していたので、海外合宿などで準備を進めていた。今後は、より早く情報を入手し動くことが大事である、と感じている。今後、NFとして真のオリンピック競技団体になるためにやるべきこと、整理すべきことは多々ある。特に次世代の選手、スタッフ、組織育成のための人材発掘、育成が重要である。

報告第8号 2021年度全国理事長会議について

小野寺専務理事より配布資料に基づき議題等の説明があった。

2月13日(日)午前10時から開催。場所はZOOM参加者を考慮し日本青年館8階の40人部屋を予約。議題は例年通りであるが、保険に関しては詳細説明をする必要がある。配布資料のペーパーレスにするか否かを検討中(中島監事は資料配布を提言)。

中島監事質問：報告8号の内容について

小野寺専務理事回答：山形岳連問題でのPT発足についての説明を予定

中島監事コメント：題名をもう少し判りやすくした方が良いのでは。

中島監事質問：オリンピックが終わったので安井理事のオリンピック検証報告を踏まえて簡単な報告ならびに今後のパリオリンピック大会への対応などの報告があった方が良いのでは。

安井強化委員長回答：用意します。

報告第9号 SDGs推進委員会の各委員会纏め報告について

前田理事より報告があった。

各委員会から提出された活動がSDGsのどの項目に関連付けられるかを纏めている。マーケティング委員会の活動は個別の事業をすることではなく、JMSCAの価値向上の活動であり、SDGs関連の具体的な取組みはない。あるいは指導委員会活動のSDGsとの具体的な関連付けがないなどの問題がある。SDGs委員会より各委員長に連絡し個別に相談しながら、具体的な内容を詰めていきたい。SDGsの目標は、必ずしも、我々(JMSCA)の活動のために策定されたものではないので、すべての委員会活動に関連付けるのが難しい場合がある。

SC部からは部単位で方針が纏められている。SC部のSDGs取り組みに関しては、SDGs委員会と連携しながら外部へ正しい情報を発信していく。

報告第10号 監事監査報告への返答評価について

会長回答から監事宛への回答が画面共有された、小野寺専務理事より各項目について概要報告がなされた。

各報告担当者からの回答に加え、会長として追加コメントがあった。

登山部門の活動状況に関してはいろいろと議論されているが、議論は今の時代にマッチした形で「何をすべきか」についてかなりのことが絞られていると感じている。欧米の動きをみると、トレイルラン、ウルトラトレイル、大衆のロングトレイルなど、ヒマラヤ黄金時代にはなかった種目が行われるようになった。

岳連の加盟人数減少、共済会問題への対応もあるが、高齢者に対する安全登山への導き、無所属登山者や登山計画書を提出しない登山者へのツール提供が求められていると個人的に考えている。

山岳4団体に関しては、それぞれに目指す方向が異なることもあり、JMSCAとしては国立登山研修所あるいは高体連との連携をさらに深め社会貢献、あるいはSDGs貢献への形づくりなどを検討している。

減遭難に関しては、読売新聞に神戸の迷い道の道標記事が掲載されて、その中にJMSCA青山理事の名前も紹介されていた。これを見ても、我々の減遭難に対する活動が、それなりに世間では見えていて感じている。

日山協共済会問題に関しては、スマートフォンで、1分で加入できるシステムについて三井住友海上と協議を始めており、2023年4月から新しいJMSCA山岳保険システムをスタートさせる。山岳保険の販売ツールを大きく変える計画である。

事務局体制に関して、SC関係の役員がデスクワークができない、山岳スキー関係の役員も今後大幅に増えることを勘案して、来年度500万円の予算計上をして事務所の改装を計画している。また、クラウドサービスを導入して、誰でも、どこからでもアクセスできる体制を構築する予定である。

SCについては、SDGsに関わる大会開催中のカーボンクリーン、脱炭素について、いかに正しく検証され、正しく発信されているかが重要である。さらにBMI問題に関してのJMSCA対応は世界に一石を投じた大きく評価されている。

古屋監事のコメント：丁寧な回答ありがとうございました。ガバナンスコード、SDGsの対応を勘案した中長期経営計画に則り、詳細な改善策、対応策、具体策を回答された部門もあり、また、具体化が難しい部門あるいは着手が難しい部門があるが、今、会長から明確な具体策の追加説明がありましたので、それに則って引き続き各委員会で協議を重ね、有意義な解決策を見つけていただきたい。時代は急激に変化している。SCでは2回のオリンピック大会を控え、かつ山岳スキー競技もオリンピック競技に加わった。登山部門も高齢化の問題があり、今後その時々で見直ししながら時代に即応した対応を今後共引き続き行ってもらいたい。

中島監事コメント：会長の力強いかつ具体的な表明を聴いて安心した。理事会が毎月開催されている。専門分野の理事は議案によって発言の機会があるが、その他の理事の議論への参加が少ない。重要な案件については、毎月の理事会に加えて臨時的理事会を開くなどして、意見を出し合い叡智を結集して問題解決に当たって欲しい。地方の問題に関しては、現在都道府県別だがブロック単位にする、あるいは賛助金、補助金等をJMSCA

から支給できる方策も考えて欲しい。

報告第11号 SCクライミング大会

村岡SC部長より報告があった。BJC開催につき三重県健康課から、オミクロン株対応について連絡が頻繁にきている。現時点では開催方向に進んでいる。1月21日に三重県四日市に丸会長、村岡SC部長他で表敬訪問する。その後、有観客か無観客かを決める。全員PCR検査の可能性はある。なお、国体選手の参加枠・人数は、すべての種別に、種別間の格差のない同一出場数を確保するように変更されている。(配付資料3, 上頁2)。

報告第12号 2022年度クライミング大会予定

村岡SC部長より配布資料に基づき説明があった。

報告第13号 クライミングイベント・コロナガイドライン

村岡SC部長より配布資料により概要説明があった。このガイドラインに基づいて各大会が運営される。

報告第14号 2022年SC国際競技大会派遣選考基準(日本代表選考基準)について

安井S強化委員長より配布資料に基づき説明があった。

報告第15号 SC第4期JMSCAパリオリンピック強化選手選考について

常務理事会にて承認された事項の報告がなされた。詳細は資料を参照のこと。

2022年度は、アジア競技大会はオリンピックに次ぐ重要な大会とJMSCAは位置づけている。アジア競技大会にて活躍することで、パリオリンピックの強化補助金に繋がる。

報告第16号 高校指導者ブロック別研修会近畿地区：報告なし

報告第17号 第29回比婆山国際スカイラン名義後援承認。

例年の名義後援依頼である。

JMSCA発信文書の管理について：最近発生した事例に基づき、小野寺専務理事より経緯の説明があった。会長記名の外部宛発信文書が会長、事務局の校閲を受けず、発信番号も付与されず、押印もなく、承認のないまま発信された。今後文書管理を確実にしていただく意味で、令和4年1月6日付けで小野寺専務理事名で各理事に注記喚起のメールに印章規程、文書処理規程を添付して送付した。

山口ガバナンス委員会管理理事コメント：今回は過失によりこのような事態が発生したと思われるが、公益社団法人としてこの種文書が独り歩きしてしまう事態は恐ろしい事である。文書発信に際して手続き上何か危険性が予知される場合は小野寺専務理事に確認する、あるいはガバナンス委員会宛問い合わせしてほしい。

丸会長コメント：本件は、ある電力会社に私の名前で寄付金の依頼書面をある委員会の方が、委員会責任者の知らない中で発信した。この文書が外部の方から私宛に届いて驚いた。私は金融機関で30年近く仕事をしているが、法人格を名乗っていわゆる「マネーロンダリング」と言われる事件が昨年だけで36件発生している。重要犯罪である。今回はこれにかなり近い行為とみられがちであり、会長はじめ常務理事、理事、監事の名前を使って外部に出す文書については、小野寺専務理事あるいはガバナンス委員会を通して十分な手続きを踏んだうえで発信することを願います。

「ガンバ!負けるなガバちゃん」

作者:未来



表紙のことば

今月号の表紙写真は、ブロード・ピーク側から見た、影マッシュャブルム(7,821m)です。

1892年、この地を訪れたマーティン・コンウェイは、「日没頃、雲の間に隙ができ、氷河を越えて私たちの真向こうに、すばやくヴェールを脱いで、マッシュャブルムの輝く山容が現れた。その岩の頂は夕日に金色に染まり、大きな雪の裾は、下の氷河までなぎおろしていた。最高点は、私たちの方へバットレスを突出するようにそびえ立ち、こちら側からは近づきがたく思われた。云々。」と記述している。

(写真撮影 尾形好雄)

編集後記

次回冬季オリンピック種目の山岳スキー競技が、宇奈月温泉スキー場で開催された。シールを付けてまた、スキーを背負ってスキー靴で登り、登った後は滑り降りる時間で勝敗を決めるインディビジュアル競技、スキー靴で雪の斜面を登るってなんか、雪中運動会みたいでラッセルの競争は楽しそう。どう練習をするのか興味があります。今までにない競技方法が新鮮に感じます。1位が23歳、2位が47歳という結果に、体力だけでない面白さがあるようなワクワク感があります。今回は見れなかったのですが、今回は実際の競技を見てみたいもんです。

(蛭田伸一)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第636号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和4年3月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

[山岳雑誌] 山と人、時代をつなぐ

岳人

特別編集

春山

花の山、残雪の山

発売中

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格968円(税込)



年間購読がおすすりめです

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊

年間購読なら12冊

1冊分おトク!

~~10,560円~~ (税込)

9,680円 (税込)

11,616円(税込)

10,648円(税込)

年間購読特典

岳人コンパクトマルチランプ

さまざまなシーンで活躍する超軽量ヘッドランプ。



限定デザイン!

全国1,900カ所以上でご優待!

岳人カード

全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。



期間限定キャンペーン

岳人900号記念キャンペーンオリジナルバンダナプレゼント
1974年に創刊した「岳人」は、2022年6月号で900号を迎えます。これを記念して、年間購読者さまにオリジナルバンダナをプレゼントします。【申込期間:6/14(火)まで】



年間購読のお申し込みはこちらから! >>>

<https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



「MAMoL マモル」
山を愛する人たちの共済会を～

WEBからもお申込みいただけます